

立松隆司さんへの

インタビュー

- 職業：陶芸家
- 家族構成：夫婦
- 移住歴：43年
- お気に入りのスポット
松坂城の石垣



「移住前の不安などはなかった。直ぐにでも窯を始めたいと思っていたが、田舎に移住する人は少ない時代だったので、転居時の苦労は今以上でしたよ。」と語るのは、移住歴43年になる陶芸家の立松隆二さんと妻の房恵さん夫妻。

経営する香肌窯は、ご主人が土作りや成形を行い、絵付けを夫人が担当する。

雄々しいイメージの造形のなかに、映える色彩は、どこかおおらかで見える人を引き付ける味わいのある作品で、近くの道の駅「飯高駅」でも作品を販売している。

立松さん夫妻の移住のきっかけは、「瀬戸市で3年、伊勢市で3年修行をし、自身の窯を持ち独立しようとしたことがきっかけで、当時は公害問題が取りざたされており、窯の煙にうるさくないところを自分で探すうちに、修行していた伊勢市にも近い飯高に移住することとなった。当時は今ほど田舎に移住する人などいない時代だったうえ、知り合いなどいなくなったので、各集落をまわり地元で薪窯について説明会を何度も行い理解を求める活動をしました。今では、お茶の霜



『作りたいものを作り続ける』

焼け防止になるから、もっと燃やしてくれと言われてたりしますよ。」と語る。この地域に移住を検討している人は、山育ちの人の方が馴染めるらしく、初めて移住を検討する人はタイプによって海の地域も確認したほうが良いそうだ。

町については「飯南・飯高地区が松阪市と合併したことで色々な公民館活動が出来るようになったのは良かった。冬は寒すぎずのんびりと歴史探索ができる魅力ある町。特に松坂城の石垣はお気に入り、昔の道標なども趣があつて良い」と。確かに石垣は壮大で戦国時代の面影を感じさせる名城だ。

そんな松阪市で長年住んで不便を感じたり改善して欲しい点を聞くと「松阪市には高校や本屋が少なく、デパートがないのは不便だね。飯高地域にも図書館が欲しい。そこが住民が集まれる場になる。そこで地域の歴史なども聞けたらと良い思う」と話す。



最後に、今後の目標を聞くと「自分が本当に作りたいものを作り続ける。それが一番楽しい。売れると思つて作るものは作品がいやしくなる。モノを作る者は作品に自分の心が出ると思ふ」と力強く答える。自身が納得できる作品のために、土と格闘する日々をこれからも送ることだろう。

